

令和5年11月14日(火) 午後1時30分から 新居高校会議室

参加者(学校): 校長、副校長、事務長、全日制教頭、教務課長、生徒課長、進路課長
総務課長、定時制教頭

学校運営協議会委員: 中島 登代子 委員、井原 裕司 委員、谷 和憲 委員、鈴木 勝士 委員、
小笠原 昌之 委員、(片山 雅博 委員は欠席)

◎校長挨拶

6月以来、5か月ぶりの開催となる。前回の会議後すぐに実施された文化祭では、記録的な大雨の影響を受けたが、商工会をはじめ地域の皆様に助けて頂いた。改めて地域に支えられている学校であると認識した。

◎参加者自己紹介(第1回で実施済みの管理職を除く)

◎報告および協議

1 教務課関係

○欠席、遅刻、早退の経年比較による増加が著しい。

中島委員: 全国的にも同じ傾向がみられるが、学校に行かなくても大丈夫感が増加している。SCなどの活用はいいのだが、間にSCなどが入ることにより生徒と教員が話すことができなくなってしまっている状況もある。

井原委員: 欠席、遅刻、早退が多い生徒の部活動の活動状況はどうか、かつては部活が面白いから学校に行く、帰りたくないという発想であったが。

鈴木委員: 遅刻した者はそのまま授業に出れるのか? 注意されるのが怖い、遅刻して申し訳ないという気持ちが薄れている。指導されないなら楽なほうを選ぶということが子供たちに浸透してしまっているように感じる。規律とマナーという講座をやらしてもらったが、残念な数字だ。

学 校: 部活動に所属していない生徒も多い。中学校の部活の形態が変わって来ており、一度離れてしまうと戻りたくないとする生徒も多い。

○ICTの活用について、学級閉鎖、学年閉鎖への対応ができた。

中島委員: 学級閉鎖時の課題提供について、元気な生徒と、病気の生徒の扱いは同一なのか、対応が難しいのでは。

学 校: あくまでも教育機会の確保であって、評価につながるものではない。

2 生徒課関係

○交通事故の状況、非行の発生状況

学 校: 非行を繰り返す生徒が多い、その生徒たちは欠席、遅刻が多い生徒。

鈴木委員: R5はまだ半年なのに、指導件数が昨年を上回っており多い。

小笠原委員: コロナ禍で何もできなかった世代が、規制が緩まったことにより何でもできるようになってしまっているのでは。

谷 委員: 非行は現実から逃げたい気持ちの表れではないか。

学 校: 指導を繰り返す生徒が多い。内面の改善を図っているが、苦慮している。コロナを経て、人との関わりができない、トラブルを自分たちで解決できない生徒が多い。保護者への対応が困難なケースも多いが、学校がチームとして機能し、適切な指導、丁寧な対応ができています。

中島委員：非行を繰り返すのは指導が効いていないから。内面を見ることによりどう対応すればいいかが分かる。みんなが同じことをしてはワンチームにならない。目標は一つ、手段は多様。

学 校：非行が家庭に起因しているケースが多い。高校生になって非行が表れる。コロナにより症状が以前より後になって表れているようだ。大人になりきれていない、親からも愛されていない。

中島委員：小、中学校でやるべきことができていないのか、高校にしわ寄せがきている。丁寧にやっているからこそ、多くの表れを拾えている。子どもたちも、盗ったらダメ、たたいたらダメ、は分かっている。「でもやってしまう」。対症療法にならないように、内面を、本質を捉えていくべき。

学 校：昔のほうが懲罰的に指導しやすかったが今はそうできない。通級の先生の指導を見て教員が学ぶなど工夫をしながら対応しているが、ぜひ皆様の力も借りたい。

3 進路課関係

○進路状況の説明

学 校：卒業生全体の数が減っており、専門学校への進学が減っている。就職に関しては求人が増えており、大企業は選ばれて埋まるが、その他の企業は生徒数の減少により送る生徒がいない状況である。進学に関しては看護、保育系がいない。

小笠原委員：介護の業界は人手不足。企業から専門学校に行かせるところはあるか。

学 校：自動車関係や看護系ではよくあるが、多くはない。今年はいない。

中島委員：福祉コースがあるのに看護、保育系がいなくなるのはなぜか。

学 校：地域的に製造業が多いことと、職のイメージか。試験にチャレンジしようとする生徒がいない。

中島委員：企業は高卒が欲しい。給料は安い、4年間で育つ。企業とのつながりは大切。子どもたちが職を知ることにつながるし、子供たちを知ってもらうことにもつながる。

4 総務課関係

○活動状況報告

5 定時制関係

○生徒の在籍状況（外国にルーツを持つ生徒、不登校経験者など）

○教務・研修課関係（1学期成績状況、職員の研修）

○生徒・保健課関係（生徒指導、交通事故、感染症罹患状況）

○進路・総務課関係（進路状況）

○その他（定時制における特別活動の取組、生徒生活体験発表大会、部活動）

小笠原委員：職場にも外国籍の社員が多くいるが、言葉の壁は大きい。自身の将来に悩み、苦しみを感している。生徒たちも仕事をするようになると言語の習得は必要。だからこそ今が大切。

鈴木委員：1月に行われる定時制の規律とマナーの講師もポルトガル語ができる。目標を持つことが大事、学ぶきっかけになる。

学 校：その講師の方に（外国籍の方に）言語の大切さの指導をお願いしたい。

谷 委員：様々な取り組みをしているようなので、その学びを続けて欲しい。

第3回は2月6日、8日、13日、14日、15日

上記の日程を軸に開催日程の調整をして実施する。